山形県スポーツ少年団

# 大空に翔る

令和６年３月発行
No.39

## 地区協議会だより

山形県スポーツ少年団指導者・育成母集団研修会
（村山地区協議会）

第54回東北ブロックスポーツ少年大会
第59回山形県スポーツ少年大会（最上地区協議会）

置賜地区協議会指導者・育成母集団研修会
（置賜地区協議会）

第50回日独スポーツ少年団同時交流受入事業
（庄内地区協議会）

### 「文化」としてのスポーツを目指して

山形県スポーツ少年団
本部長　遠藤　啓一

昨年春に、新型コロナウィルス感染症が五類に移行したことにより、今年度はいろんな事業が従来のように対面で開催されました。感染症対策をしっかりとしての実施に変わりはないですが、交流事業等も再開されて、充実した経験をした方も多いかと思います。

しかしながら、昨年の夏は記録的な猛暑で、活動時間、内容、水分補給等に細心の注意をしての活動になりました。

そんな中、私は、今年で五十周年を迎えた日独スポーツ少年団同時交流に参加する機会を得ました。コロナ禍で実に四年ぶりの対面での交流でした。日本、ドイツ双方で記念式典が盛大に行われ、これまでの歴史を振り返りながら大勢の参加者が感慨に浸りました。

ドイツの方々と交流してみるといつも感じることなのですが、彼らの生活の中に「スポーツ」が自然に取り込まれているのです。一つの文化としてスポーツが捉えられています。日本にも、そんなスポーツ文化が根付いてほしいと感じさせられる旅でした。

さて、来る四月からは、移行期間も終わり、改定されたスポーツ少年団指導者制度が本格実施となります。また中学校運動部活動の地域連携も二年目となります。子供たちのより良いスポーツ環境のために、努力していきたいものです。

発行／公益財団法人　山形県スポーツ協会　山形県スポーツ少年団　（山形市松山２－11－30 ☎(023)625－5750 http://www.yamagata-sports.or.jp/）　印刷／(株)大風印刷

# 令和五年度　山形県スポーツ少年団事業

## 第五十四回東北ブロックスポーツ少年大会
## 第五十九回山形県スポーツ少年大会

山形県スポーツ少年団最上地区協議会
会長　元木　真澄

記録的な夏の暑さが続く中、第五十四回東北ブロックスポーツ少年大会、第五十九回山形県スポーツ少年大会を神室少年自然の家を会場に、多くの皆さんのご参加のもと、無事終了できましたことに心より感謝申し上げます。

八月八日(火)一日目は、予定通り全員の参加のもと、開会行事、オリエンテーションを終えました。交流活動Ⅰ「アイスブレイク」では、初めて話す参加者同士、なかなか動けず、緊張した面持ちでした。続いて行われた班別ミーティングでは、班長、係などの役割分担、班別活動目標などを決めました。今大会では、中学生と小学生が一緒という混合の班構成としたため、慣れないながらも中学生が先頭になり、話を進めていました。その後は野外活動Ⅰの野外炊飯に移りました。班付きの指導者や自然の家職員の指導の下、薪割りからの火起こしや食材の下ごしらえを班毎に手分けをしながら、見様見真似で行っていました。予定していたよりも時間はかかりましたが、薪で炊いたご飯とカレーを口にし、調理の疲れも忘れるような笑顔あふれるおいしい夕飯となりました。不慣れな後片付けもありましたが、何とか終えることができました。その後、短時間でしたがモルック体験をしました。初めての子供達もおりましたが和気藹々と楽しむことができ、次第に打ち解けてきた様子が見受けられました。係会、班会議、入浴を行い、一日目を終了しました。

八月九日(水)二日目は、寝不足気味の子供もいましたが、朝のつどいから始まり、朝食は野外炊飯で卵とソーセージを焼くなどして、パンに挟んでホットドックにして食べました。二日目のメインのプログラムは「川遊び」です。自然の家の職員から入念に装備品や安全についての細かなレクチャーを受け、バスに乗って川へ移動しました。いざ川へ足を踏み入れると、暑さ厳しい外気で温められているかと思いきや、想像以上に冷たい水に歓声が上がっていました。堰堤からの飛び込みや浅瀬で網を使った生き物観察、上流での活動に分かれて行いました。班毎でボートに乗り、オールを漕いで上流に向かい、「勇気の岩」と呼ばれる最高三メートルの岩場から勇気を振り絞り次々と跳び込んでいました。終わりの時間が近づくと、「もっと遊びたい」という声が多数聞かれました。

昼食は川岸におにぎり弁当を食べました。疲れた体で食べるおにぎり弁当は、格別においしかったです。この川遊びでは、最上地区市町村担当者に絶大なる協力を頂きました。心より感謝申し上げます。その後、シャワー、休憩をはさんで三回目の野外炊飯に取り掛かりました。三回目の炊飯は、防災食を意識して「ラップ」炊飯を実践しました。三回目となると、火起こしや準備、後片付けも慣れた手つきで、仲間同士で協力する姿は逞しくも感じられました。

夜の活動は、予定を変更して、館内で「モルック」をし、三日目の「試合」に向けて練習をしました。夜は日中に比べて幾分気温は下がったものの、エアコンがない生活に些か指導者は疲れも出ていましたが、子ども達は日中の疲れも忘れ、元気に大会最後の夜を過ごしていました。

八月十日(木)最終日、朝のつどい、館内清掃、朝食の後、林の中でモルックの「試合」をしました。時折心地よい風が吹く午前中の林では、ナイスショットも飛び出し、大いに盛り上がったモルック大会となりました。その後は、各自感想文を書き上げ、閉会行事では代表二名に発表してもらい、全ての日程を終了することができました。

あっという間の二泊三日でした。東北ブロックスポーツ少年大会に参加した中高生と県スポーツ少年大会に参加した小学生がすべての日程を共にし、多くのことを経験できたと思います。この経験を、これからのスポーツ少年団活動や日常生活に大いに生かしていって欲しいと思います。

## 令和五年度
## ジュニア・リーダースクール

山形県スポーツ少年団
指導育成委員会委員　柴崎　美枝

八月に予定していたジュニア・リーダースクールは、日程を変更して十月二十九日と三十日の二日間で開催されました。

数年ぶりの宿泊での開催となりリーダーに協力を依頼し、可能な限り充実感のある活動になるように工夫していきました。

一日目はアイスブレイクでいいスタートを切り、その後「スポーツ少年団とは」について話を聞いたときには、

スポーツ少年団の活動に楽しさを感じながらも気の引き締まる思いで学んでいるようでした。

次に天童市の西沼田遺跡公園で行った「クラフト作成」では、真剣な眼差しで他の参加者との交流を楽しんでいました。夜には全員がそろっての「キャンドルを囲もう」を体育館で行い、より一層心の距離を縮め、今回の出会いを心に刻もうとする姿がありました。

二日目は「スポーツ少年団のリーダーとは」というテーマで、指導者の先輩から体験を通した話を聞きました。これまであまり意識してこなかったリーダーや指導者としての目線を持つ大切さを感じているようでした。

今回のジュニア・リーダースクールについては記録集で詳しい様子がわかりますので、そちらで確認していただきたいと思います。これからもリーダーを活用し、スポーツ少年団の活動が広がることを願っています。

## 令和五年度山形県スポーツ少年団指導者・育成母集団研修会

東根市スポーツ少年団
副本部長　千葉　徹

十一月十九日(日)、さくらんぼ東根温泉琥珀の湯・欅の宿を会場に指導者・育成母集団研修会が開催されました。

この研修会は、スポーツ少年団活動の一層の発展を願い、指導者並びに育成母集団関係者等が一堂に会し、それぞれの役割について認識を深めるとともに、指導者の資質向上と育成母集団の活性化を図ることを目的として行われています。村山・最上・置賜・庄内の四地区の輪番で実施されており、今回は村山地区が担当になっていました。

前段は、日本スポーツ協会少年団課長（運営担当）金谷英信氏より、「日本スポーツ少年団第十一次育成五ヵ年計画（アクションプラン）指導者・育成母集団に期待すること」と題し講演いただきました。

「ガイドブックスポーツ少年団とは」の冊子を開くと、巻頭に日本スポーツ少年団団員綱領・日本スポーツ少年団指導者綱領が出てきます。これを成就するには、何が大切なことかについて、三つの項目を紹介されました。

一、人材の育成
　地域における専門分野での発掘、若手の登用や少年団同士の交流や研修会への参加等
二、活動の推進
　活動の連携事例の紹介や資格取得の促進、団運営や法令順守に関する内容
　団員、保護者、学校の活動、特に女子団員の拡充、競技大会の在り方の検討
三、組織の協調・連携
　組織の設定・運営、母集団の在り方の検討、中学校との連携

この講演を参考に団員一人一人が安全・安心に活動が出来るようにしたいと思います。

また、「スポハラ」についても分かりやすく、お話しいただきました。スポハラ（スポーツ・ハラスメント）とは、スポーツの現場において、暴力や暴言、ハラスメント、差別など「安全・安心にスポーツを楽しむことを害する行為」のことを指します。

以前からスポハラをなくす為の努力が全国でされてきましたが、未だに暴力・暴言・ハラスメントなどの不適切行為は後を絶たないのが現状のようです。その為、今、「NO！スポハラ」活動ということで、日本スポーツ協会、日本オリンピック委員会など様々な団体や場所、場面で力を入れて取り組んでいる、ということでした。スポハラを起こさないために大事なことは、勝利を目指すことは大切ですが、勝利がすべてではないということ、プレーヤーの自発性を尊重すること、指導者も保護者も常に学び続けることなどが特に重要になるということでした。これらは、スポハラを起こさない為だけでなく、子供たちがスポーツを楽しい、面白い、続けたいと思ってくれるきっかけにもなるのではないかと思います。

それが、競技力の向上や、生涯スポーツへもつながってくるのではないでしょうか。

今後、スポーツが今以上に身近に感じられ発展していくことを願っております。

後段は、伊藤貢氏より「良好な姿勢と動きとは？コアコンディショニングから考える子ども達の身体づくり」と題し講演いただきました。良好な姿勢と動きについて、普段聞き慣れない言葉もありましたが、実際にストレッチポールを使っての体験や身体を動かしての説明も多く、とても分かりやすかったです。人生一〇〇年時代、いかに寿命を長くするかは重要であり、日常生活の中で良好な姿勢と動きを無理なく的確に行い、自分の身体を自分で整え、自分の健康を自分で守っていくことが何よりも大切であるとお話しされていました。

実際は、私たちが生活していく中で実践しようと思っても、なかなか厳しいので、専門の健康運動指導士など様々な資格をもってらっしゃる伊藤貢氏に相談することを勧めます。

今回の講演は山形県スポーツ少年団発展のため、また今後の団員への指導のために大変有意義な研修会となりました。

## 第五十回日独スポーツ少年団同時交流受入

鶴岡市スポーツ少年団
本部長　村田　久忠

八月一日から五日までの五日間、コロナ禍で三年ぶりの日独スポーツ少年団同時交流受入事業を庄内担当で鶴岡市を中心に行いました。ドイツ団は指導者一名、団員五名。前滞在の福島県いわき市に行き、夕方に庄内へ到着しましたが、長旅にも関わらず疲れを見せず、素敵な笑顔が見られました。

宿泊先は、四泊ともホームステイです。ドイツ団にとってもホストファミリーにとっても忘れられない大きな思い出になったに違いありません。

五日間のプログラムは左の表の通りです。最終日は鶴岡市役所前でさよならセレモニーを行いました。四泊五日と短い時間ではありましたがホストファミリーとの絆は深く、全員が涙する感動的な別れとなりました。

今回来日した団員との交流が継続されることを願うとともに、本事業に協力いただいた関係者に感謝を述べます。

### 受入プログラム

| 月　日 | 日　　程 |
|---|---|
| 8／1（火） | ドイツ団の迎え<br>いわき市出発<br>ドイツ団到着<br>ウェルカムパーティー<br>ホームステイ |
| 8／2（水） | いでは文化記念館見学<br>羽黒山石段ウォーク<br>山頂にて集合写真<br>船番所着　昼食<br>最上川舟下り<br>ホームステイ |
| 8／3（木） | 鶴岡市長表敬訪問<br>致道博物館見学<br>藩校致道館見学<br>昼食（市内）<br>市内高校生との交流<br>（書道・茶道体験等）<br>ホストファミリーとスポーツ交流<br>ホームステイ |
| 8／4（金） | サップ体験・海水浴<br>昼食（カモンマーレ）<br>加茂水族館見学<br>庄内観光物産館でお土産購入<br>ホームステイ |
| 8／5（土） | さよならセレモニー<br>宮城県大郷町へ引き渡し<br>見送り |

### ●ドイツ団とホームステイ受入家族

**《レア　ハイザー　団長（体操）》**
**城北わくわくスポーツ少年団**
**指導者　平賀振一郎**

家族にとっても貴重な国際交流となりました。更に、指導者として研修を深めたいです。

**《エマ　シュテフェンス（フェンシング）》**
**《スージー　ニューエン（フェンシング）》**
**櫛引体操スポーツ少年団**
**指導者　小林　美和**

二人は積極的に参加してくれてとても楽しそうでした。後半に中学生リーダーも参加してくれて良かったです。

**《シャーロット　グロルミシュ（フェンシング）》**
**藤島バレーボールスポーツ少年団**
**佐藤　千夜**

言葉が通じなくても心と心が通じ合えることを実感しました。良い思い出です。

**《カタリン　ヴューレ（体操）》**
**藤島バレーボールスポーツ少年団**
**秋庭　優那**

受入五日間はあっという間に過ぎ、すごく刺激になりました。ドイツに行きチャレンジしたいと思いました。

**《マックス　フフナーゲル（体操）》**
**三川バドミントンスポーツ少年団**
**石栗　彩知**

ドイツから来たマックス君は十七才なのに英語がペラペラですごいと思いました。私はまだ英語がよく分からないので話すことが出来ませんでしたが、一緒にトランプやＵＮＯをして交流しました。マックス君の知っているドイツのルールと私たちが遊んでいる日本のルールが少し違っていたので、頑張って英語で何とかしないと、と思っていましたが、弟と一緒にやって見せるとすぐに分かってくれました。この時に使った英語は数字と「ＯＫ！」だけでした。少しの英語と身振りだけで分かってもらえた時はすごく嬉しかったです。こんな風にすると伝わるんだと分かった後は緊張がとれて少し楽な気持ちで遊ぶことが出来ました。スポーツ交流で一緒にシャフルボードをした時も英語で会話は出来ませんでしたが、勝って一緒に喜んだり、失敗して残念がったりして、少し緊張するけど日本の友達といるのと同じだなと思いました。

出会った時は会話が全然通じず、気が遠くなりそうな五日間になると思っていましたが、とても短い五日間になりました。またホストファミリーになって外国の人と交流したいです。

# 単位団紹介

## Bon・クラーズスポーツ少年団（寒河江市）

代表者　柴崎　美枝

いろんな子ども達に、スポーツの楽しさ、何でも挑戦する心を持ってほしいという思いから、十一年前に複合スポーツ少年団としてBon・クラーズは活動を開始しました。

カヌーやバドミントン、ミニバスケ、ボルダリング等々幅広くスポーツを楽しんでいます。ACPも積極的に取り入れ、年少から中学生まで異年齢の交流も深めています。また、中学生以上のリーダー育成、日独同時交流への派遣等にも力を入れています。スポーツを通して、活動内容や言葉の壁を超えて全国や世界に友達が出来たら素晴らしいことだと思いませんか？

子ども達が楽しく活動している姿や、挑戦し出来た瞬間、そしてその笑顔を見られる事に、私達指導者も大変嬉しく思っています。とはいえ、これまで団活動が出来ているのも、入団してきた子供達、活動に協力して下さっている母集団の方々があってこそと感謝しています。

子ども達は我が子同然。これからも、子ども達が、笑顔と共にスポーツを楽しめるように一人ひとりに向き合い、共に邁進していきたいと思います。

## 最上UNITED．FCスポーツ少年団（最上町）

代表者　佐藤　勉

最上UNITED．FCスポーツ少年団は、平成二十六年に最上JFCと大堀SSSが合併して誕生しました。現在六年生から年長児までの計五十五名で活動しています。少子化により町内の子ども達も減少傾向にある中ですが、たくさんの子ども達にサッカーに興味を持ってもらえるよう、無料体験会の実施やSNSで情報発信をするなど、積極的な普及活動をおこなっています。

チームコンセプトは、①挨拶・準備・後片付けをしっかりとできる選手、②感謝の気持ち（リスペクト）を常に持てる選手、③サッカーが生涯スポーツになるように楽しさを伝えるです。以上の三点を大切にして活動しています。平成二十八年には全国大会にも出場させていただきました。

活動は平日に週三回のトレーニングをし、年間を通してリーグ戦や各種大会への参加の他、年に二回県内外のチームを招き交流大会を主催しています。冬期間については、県外への遠征を積極的に行っています。また、ブラジルのサンパウロFCとも定期的な交流も行っています。

今後もスポーツ少年団の活動を通して、子ども達の育成と地域社会の発展に寄与できるよう努めて参ります。

## 小国ミニバスケットボールスポーツ少年団（小国町）

指導者　舟山　國雄

小国ミニバスケットボールスポーツ少年団は、昭和六十年に創設され、三十九年目を迎えます。活動は、週三回（水曜日・木曜日・土曜日）行っています。普段はバスケットボールの練習が中心ですが、鬼ごっこなどの体力づくりや年代に合わせた遊びを取り入れ、団体競技に繋がるように工夫しています。また、毎週水曜日は「親子練習日」と設定し、親子で楽しくバスケットボールや運動遊びが出来る環境をつくっています。

近年では団員数も減少傾向にありましたが、今年度は小学二年生から六年生までの男子十名、女子十五名、計二十五名の入団がありました。団員数が少ないときの活動とは違い、幅広い年代での活動は、とても活気があり、上級生が下級生の面倒を見るなど良い面がたくさん見受けられます。また、他市町との交流も増えたことや、今まで人数の関係で出場できなかった大会にも出られるようになったことなど、単位団として大きな一年となりました。

これからも、みんながスポーツに興味を持ち、楽しく運動に向き合うことの出来る団員中心の活動を心がけていきながら、青少年の健全育成に尽力していきます。

## 朝日バレーボールスポーツ少年団（鶴岡市）

代表者　渡部　恵美

朝日バレーボールスポーツ少年団は、結成創立四十五年を迎えようとしています。

昭和、平成、令和と時代は移り、子供たちは環境の変化の中育ってきています。

変わらないのは、親や大人たちの子供への愛情、変わったのは、指導の在り方。指導者は、常に向上心を持ち、学習し子供たちと接しています。

我が団の特長は、平日夜間の練習会場、時間帯を小学生と中学生が同じ空間で行っていることです。時には、中学生との練習試合や高校生のサポートを受け、楽しく活動しています。

また、競技を超えた交流「スポーツ少年大会」にも積極的に参加をしています。二〇一八年には、「日独同時交流」で団員と指導者がドイツへ！これからもリーダーが育ってくれることを願っているところです。

ここ数年は、大会主催団体の慈善事業に賛同し、クリスマス近くになると、こども園などに贈る飾りを制作しています。奉仕活動とともに、育成会事業に定着しています。

これからも団関係者皆が成長していける活動を目指していきます。

# 団員の夢

## 「剣道から学んだこと」

河北剣道スポーツ少年団（河北町）
黒田夏央

僕が剣道を始めたのは三年生の時です。テレビで剣道を知ってやってみたいと思ったからです。

最初は足の踏み込みと手の振りが一緒にできず難しかったけれど、四年生になる頃にはできる技も増えてきて、時々一本を取る事ができるようになりました。

その頃はコロナで大会が全くなく、毎回ひたすら稽古をしました。五年生でやっと試合ができるようになり、最初は相手が強くなかなか一本を取ることができませんでしたが、一生懸命稽古をすることで一本だけでなく二本勝ちできるようになってきました。五年生と六年生の時に団体で日本武道館での全国大会に出場することができてとてもうれしかったです。

また、剣道を続ける事で他のスポ少の友達もできました。最近のめりこんでいる事やがんばっている技を話したりするのが楽しいです。

スポ少では先生方だけでなく時には大学生、高校生が稽古に来てくれます。技の打ち方を教えてくれるのでとてもありがたいです。

先輩方がやってくれたように僕も技を練習し、後輩や新しく入ってきた人達に技のコツなどを教えられるようになりたいです。

## 「僕の夢」

新庄グランツSC
スポーツ少年団（新庄市）
阿部橙夢

僕の夢は、全国大会に出場し、良い結果を残すことです。

僕がサッカーを始めたきっかけは、お兄ちゃんが三年生からサッカーを始め、僕も幼稚園からボールをさわっていた事で、自然に一年生から新庄グランツSCに入団しました。

グランツのサッカーは「楽しむ」事を大切にしていて、その通り、今僕も楽しくサッカーができています。でも、二年生の時、四年生の試合に出て、思うようなプレイができなくて、とてもくやしかったです。もっと練習し、いいプレイができたり、少しさぼってしまったりというくり返しの中で、フットサル東北大会では、さらにきびしい現実を知りました。試合に勝てず、なやみ、あきらめそうになったけど、コーチや家族のおかげで気持ちを切り替えて練習にはげむ事ができました。

また、新人戦県大会では予選突破できず、つらかったけど、仲間と楽しみながら最後まで走りきることができました。

これからも、新庄グランツの「楽しむ」をもっと大切にし、つらくてもくやしくても、後悔しないよう全国大会に向けて練習していきます。

## 「強いチームを目指して」

Seiber
スポーツ少年団（米沢市）
笹木一花

私がバレーボールを始めたのは、小学一年生の時です。姉が楽しそうにプレイする姿に興味を持ち、バレーボールを始めました。

何も分からなかった頃の私に先輩達は優しく声を掛けてくれました。今は私がキャプテンとして先輩達から教わったことを、後輩達へ伝えています。

私が特に大切だと思ったことは、チーム内での「コミュニケーション」と「声出し」です。バレーボールはチームでプレイするスポーツです。誰かがミスをしても皆でカバーできる素敵な競技だと思います。強いチームは皆が声を出し気持ちが一つになっていると思います。私はそんなチームを目指し練習に取り組んできました。コロナ禍で練習が出来なかった頃を思うと、皆で練習ができて大会へ参加できることがとても幸せなことだと思いました。私達のチームは県大会の一回戦で敗れ、とても悔しい思いをしましたが、ここまで支えてくれた全ての方々に感謝したいと思いました。

私は中学生になってもバレーボールを続けたいと思っています。悔しかった経験をバネとし、勝ち進んでいけるよう頑張っていきたいです。

## 「陸上からもらった夢」

余目陸上
スポーツ少年団（庄内町）
國井一那

ぼくが陸上を始めたのは小学校三年生の時です。きっかけは、幼稚園の年少の頃から体力をつけるために、お父さんと一緒に毎日走っていたからです。そんな毎日を過ごし、少しずつ大会にも出る様になり走る楽しさを覚え、陸上クラブに入って走ることを極めたいと思ったからです。

ぼくには夢があります。その夢は東洋大学に入り、大学三大駅伝を走ることです。ぼくはその夢のために、陸上の週二回の練習に加え、自主トレーニングも週二、三回行っています。しかし、六年生での目標であった〝一〇〇〇メートルで県一位になる〟には届かず、とても悔しかったです。

山形県陸上競技選手権大会では、スポ少の短距離メンバーと出場し、優勝することが出来ました。その後の青森県で行われた東日本大会で、また同じメンバーでリレーを走れたこと、そしてずっと憧れていた一五〇〇メートルにも出場することができ、六年生で最高の思い出となりました。

来年度からは中学生になります。中学での目標は、三〇〇〇メートルで全中に出場することと、県縦断駅伝に出場することです。将来の夢に向かって今まで以上に練習を一つ一つしっかり頑張っていきます。

## ●東北ブロックスポーツ少年大会
### 「感じた成長、そして未来へ」

青葉剣道スポーツ少年団（川西町）
今野由愛

東北ブロックスポーツ少年大会に参加して、私は様々なことを学び、楽しみ、成長した三日間だったと思います。

小学生が多く、また、知らない人ばかりで不安だった一日目。しかし、それと同時に新しいことに挑戦できるという期待が心の中で入り交じった一日でした。

自分達で用意し、自分達で料理し、自分達で行動する。「自立」を自覚した二日目。そして、他の子達の良さを知り、仲を深めた一日でした。また、川遊びなど、初めての体験もありました。アブが出て皆でさわいだ事も、今では大切な思い出です。

頼れるリーダー、盛り上げてくれる男子、しっかりとした女子。私にはない様々な個性を見て、自分と向き合うことができました。料理、たき火、遊びなど、初めてのことでいっぱいでした。この経験を生かし、成長し、未来へ繋いでいきたいです。支え合い、人は成長するということを実感できました。親切にしてくださった先生方、本当にありがとうございました。

## ●ジュニア・リーダースクール
### 「ジュニア・リーダースクールに参加して」

やなぎスポーツ少年団（寒河江市）
片桐夏凜

ジュニア・リーダースクールを通して、「リーダー」という重要な役割の責任感や、自覚を持って行動することの大切さを学んで、班でたくさん交流し、仲を深めていきたいと思っていました。

実際に参加してみて、リーダーとして在るべき姿や理想のリーダー像が明確になりました。

今回の活動で自分が指導者の立場になってみる活動では、周りを見て判断し行動する難しさを感じました。アクティブチャイルドプログラム（ＡＣＰ）ではスポーツを全力で楽しませることも大切ですが、指示が通らなかったり、分かりやすく説明しなくてはならなかったりと大変苦労しました。先頭に立って指導者の視点に立つと「もっとこうすればいいかもしれない」と考えることができたので、こういった経験を自分の団でも積んでいきたいです。

活動全体を通してリーダーの先輩方に任せっぱなしになってしまったので、自分から積極的に率先して行動できるようになりたいと強く感じました。その先輩方を手本とし、「人とふれあう力」と「深く考える力」のあるリーダーを目指していきたいです。

## ●ジュニア・リーダースクール
### 「初めてリーダーとして参加して」

藤島スポーツ少年団（鶴岡市）
秋庭優那

今回初めてジュニア・リーダースクールにリーダーとして参加するということで緊張もありましたが、指導者の方にご指導いただきながら活動し、やはりリーダースクールは楽しいと実感しました。

活動の際はどのチームも雰囲気が良く、失敗しても「大丈夫！大丈夫！次！次！」と声を掛け合っている姿が印象的でした。また、シニア・リーダースクールで実際に体験して学んだ事も直接参加者に伝える事ができました。講義では理想のリーダー像を見つめ直し、今後の目標ができました。それは、もっと視野を広げて指導者の次の行動を予測する事や団員の異変などに気づく事。リーダー間のコミュニケーションも大切にしてスクール全体が円滑に進むように行動する事。私は、どんな事にも臨機応変に対応できるリーダーになりたいです。そして、参加者とリーダーは鏡だと思って自分自身も楽しんでいきたいと思います。

県内ではリーダーの存在を知らない団員も少なくないと思いますが、これから活発に活動してリーダー会を広め、リーダー研修を行いリーダー全体のレベルも上げていきたいです。

## ●日独スポーツ少年団同時交流派遣
### 「日独スポーツ少年団同時交流派遣に参加して」

稲穂サッカースポーツ少年団（鶴岡市）
池田直

本交流は次世代の指導者育成を目的として七月下旬から八月半ばまでの三週間、ドイツ国内において活動を行ってきました。

今回の交流は〈ＳＤＧｓ×ＳＰＯＲＴｓ〉をテーマに掲げ開催されました。ＳＤＧｓの意識が日本より高いドイツの考えを知る良い機会でした。

ドイツ団との話し合いで興味深く感じたことは、日本側は現実志向であるのに対しドイツ側は理想的思考であったことでした。私たちは、目の前のことから解決していくという考えのもと意見を上げますが、一方のドイツ側は根本に理想としているものがあるため、それを先に解決することが重要であるという考えでした。

ドイツ側の団員は私たちよりも年齢が一回り二回り低く、また限られた時間での話し合いであったため、より踏み込んだ議論にまでは至りませんでした。しかし、二週間という長いようで短い期間の中、ＳＤＧｓの意識が日本よりも強いドイツと意見を交わすことができ、また様々な体験を通して親交を深めることができたことから、非常に充実した実り多い交流だったと感じています。

## 市町村の動き

### 最上町スポーツ少年団本部事務局

最上町スポーツ少年団本部（以下町本部）は、令和五年度現在、単位団七団、団員一四八名と指導者二九名、六名の役員・スタッフが登録し活動しています。

町本部の初代本部は東向スポーツ少年団でアルペンスキー専門の少年団でした。二代目は、あたごスポーツ少年団でクロスカントリー専門の少年団でした。その後、各地域にスポーツ少年団と種目別少年団が活動するようになり、最盛期には十四単位団が活動を行っていました。

町本部では、令和三年度にはコロナ禍ではありましたが、「普通救命救急講習会」の研修会を行い、団活動中に万が一の事態が発生した場合、適切に対処できるように指導者及びスタッフの多くが参加してくれました。事故を未然に防ぐ意味でも、効果的な研修であったと思っています。

令和五年度の事業計画では、町ロードレース大会、地域スポーツ交流会の種目別大会へ参加したり、最上赤倉クラシカル等の各種大会への参加を予定しています。

最近の子ども達の体力は年々低下しており、コロナ禍の影響によりさらに低下傾向に拍車がかかっております。町本部としましても、各スポーツ少年団がより良い活動の場となるよう、各団一体となって取り組んでまいります。

## 県の動き

### 表彰

**○日本スポーツ少年団顕彰**

**〈市区町村表彰〉**

大江町スポーツ少年団

**〈表彰指導者〉**

木下秀雄（寒河江市）、藤山一栄（金山町）、大内新作（鶴岡市）、齋藤勉（酒田市）

**〈退任者感謝状〉**

井上道雄（長井市）

**○山形県スポーツ少年団表彰受賞者**

**〈功労者〉**

飯澤仁一（川西町）、鈴木幸浩（長井市）、梅津孝夫（鶴岡市）、三村健二（鶴岡市）

### 各種事業

**○スタートコーチ（スポーツ少年団）養成講習会　六コース**開催

**〈受講修了者〉**三三五名

**○JSPO公認スポーツ指導者資格更新研修　五会場**開催

**〈受講修了〉**九十名

**○山形県スポーツ少年大会**

八月八日～八月十日　山形県神室少年自然の家

**〈参加者〉**二十四名、指導者等二十五名

**○ジュニア・リーダースクール**

十月二十八日～十月二十九日　山形県青年の家

**〈受講修了者〉**八名、リーダー三名、指導者等十九名

**○山形県指導者・育成母集団研修会**

十一月十九日　琥珀の湯・欅の宿

**〈参加者〉**八十八名

**○アクティブ チャイルド プログラム普及促進研修会**　四会場開催

**〈参加者〉**一〇二名

**○スタートコーチ（スポーツ少年団）インストラクター移行研修会**　全国三会場

**〈参加者〉**三名

**○スタートコーチ（スポーツ少年団）インストラクター養成講習会**

十一月四日～十一月五日　東京都

**〈参加者〉**二名

**○ジュニアスポーツフォーラム**

六月十八日　東京都

**〈参加者〉**来場十三名、オンデマンド五名

**○シニア・リーダースクール**

〔事前研修〕七月九日　オンライン、〔全体研修〕八月九日～八月十二日　静岡県

**〈参加者〉**片桐未来（寒河江市）、菅井寿真、佐藤千夜、秋庭優那（鶴岡市）

**○全国リーダー連絡会**

十一月十二日（日）　オンライン

**〈参加者〉**上野和義

**○東北ブロックスポーツ少年大会**

八月八日～八月十日　山形県神室少年自然の家

**〈参加者〉**九名、指導者等二十五名

**○日独スポーツ少年団同時交流【派遣】**

七月二十七日～八月十四日

**〈参加者〉**池田直（鶴岡市）

**○日独スポーツ少年団同時交流【受入】**

八月一日～八月五日　田川地区

**〈ドイツ団〉**指導者一名、団員五名

**〈ホストファミリー〉**五家庭

**○全国スポーツ少年団競技別交流大会**

**【バレーボール】**

三月二十八日～三月三十一日　宮城県

**〈参加団〉**おぐにバレーボール（小国町）

**【剣道】**

三月二十九日～三月三十一日　群馬県

**〈参加団〉**楯岡剣道、葉山剣道、西郷剣道（村山市）

**○東北ブロックスポーツ少年団競技別交流大会**

**【軟式野球】**

七月一日　きらやかスタジアム

**〈参加団〉**大蔵（大蔵村）、山大附属クラブ・Jr.（山形市）

**【サッカー】**

七月十六日～七月十七日　秋田県

**〈参加団〉**モンテディオ山形ジュニア村山（天童市）、山形FCジュニア（山形市）

**【柔道】**

十二月二日～十二月三日　岩手県

**〈参加団〉**髙橋道場（山形市）

**【ミニバスケットボール】**　秋田県

〔女子〕二月二十四日～二月二十五日

**〈参加団〉**うめばちミニバスケットクラブ（山形市）、中山バスケットボール（中山町）

〔男子〕三月二日～三月三日

**〈参加団〉**大山男子ミニバスケットボール（鶴岡市）、若浜ミニバスケットボール（酒田市）